

【家庭系ごみの新たな目標値について】

R1人口(228,240人)の90.68%
「八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」より

$$\begin{aligned} \text{1人1日あたりの} \\ \text{家庭系ごみ排出量} &= \frac{\text{家庭ごみ排出量} - \text{資源物排出量}}{\text{A}} \div \text{R13推計人口} \div \text{年間日数} \\ &\sim \text{資源物を除く} \sim \end{aligned}$$

$$537\text{g/人}\cdot\text{日} = (48,390\text{t} - 7,719\text{t}) \div 206,969\text{人} \div 366\text{日}$$

$$\text{A} = \frac{\text{将来の人口減少を見込んだR13家庭系ごみ排出量推計}}{a_1 (49,003\text{t})} - \frac{\text{施策の効果}}{a_2 (613\text{t})} = 48,390\text{t}$$

$$\text{B} = \frac{\text{現在の分別状況を基にした将来の資源物排出量推計}}{b_1 (6,961\text{t})} + \frac{\text{施策の効果}}{b_2 (758\text{t})} = 7,719\text{t}$$

<施策の効果について>

	対象	事例	施策	手段	最大効果	期待される 施策の効果※
a2...	生ごみの 水切り	・横浜市 生ごみ10%減	普及啓発 の強化	・ごみ袋への記載 ・チラシ ・SNS(8エコ大作戦) ・アプリ ・ごみ減量推進員 など	可燃ごみ 1,226t減量	613t減量
b2...	その他紙 分別	・県及び市調査 20g/人・日			資源物 1,515t増	

※100%の効果は現実的ではないため、最大効果の50%と見込む

【事業系ごみの新たな目標値について】

$$\text{年間事業系ごみ排出量} = \text{R13事業系ごみ排出量推計} - \frac{\text{施策の効果}}{C}$$

$$18,311t = 27,466t - 9,155t$$

<施策の効果について>

対 象	事 例	施 策	手 段	最大効果	期待される 施策の効果
C・・・ 事業系 可燃ごみ	・前橋市 15回/日実施 事業系ごみ33.3%減	開放(展開) 検査の強化	・清掃工場へ搬入される 事業系可燃ごみの開放 検査の回数を増やす。 ・検査機の導入	9,155t減量 (33.3%減)	9,155t減量 (33.3%減)

～開放検査～

事業系一般廃棄物の減量・再資源化を促進し、産業廃棄物の混入防止をするため、清掃工場で実施している。



【事業系ごみの新たな目標値について】

～展開検査機～

ベルトコンベヤー付の装置で、収集車からのごみを受け取り、そのまま検査、終了後はベルトコンベヤーを動かし、ごみピットに直接投入できるため、効率的に検査を行うことができる（写真は横浜市より）。検査は4～6名で行っている。

